

渋沢栄一物語

【第9回】

歩兵取立を提言

元治元年（一八六四）十二月、天狗党討伐のため、一橋慶喜は近江に出陣。栄一と喜作も従軍します。水戸家出身の慶喜を頼りに京都を目指していた天狗党でしたが、その慶喜が自分たちを討伐するために出陣したとあつては、全く望みもここに絶たれることになり、もはやこれまでと加賀藩に降伏しました。

翌年二月、天狗党の主力三百五十余名は越前敦賀において斬首の刑に処せられました。その中には、高畑村の金井国之丞と普濟寺村の柿沢庄助も含まれていました。

慶應元年（一八六五）正月、栄一と喜作は昇進して小十人並・御用談所調役出役という主君に対して直接ものを言つたのできる立場になりました。



▲金井国之丞の墓（高畑）

栄一は、慶喜に進言して、京都を守るために自前の兵力を養成することの必要性を訴えました。これを領内の農民から募集し、訓練を施し、兵隊として役に立つようにするというものでした。その募集には自ら出るといふことも申し添えました。

一月下旬、栄一は、歩兵取立御用係を命ぜられ、一橋家の領地のある和泉・摂津・播磨・備中（現在の大阪府・兵庫県・岡山県）の各地を巡回しました。



【金井国之丞】(1848 - 1865)
幕末勤皇の志士。桃井可堂に儒学を学び、川俣茂七郎、小田熊太郎と共に、「桃門の三烈士」とたたえられました。甥の元治は初代大寄村長。

【柿沢庄助】(1835 - 1865)
岡部落士の渡辺家に生まれ、柿沢家に入りました。幕末勤皇の志士。幼少から学問を好み、水戸学に傾倒しました。

【天狗党の乱】
元治元年水戸藩の尊攘派が起こした騒乱。藩主徳川斉昭の藩政改革を機に登場した軽格武士を中核とする急進派です。攘夷延期を不満として筑波山に拳兵、心事を一橋慶喜に訴えるため、京都に向かいましたが、途中加賀藩に降伏しました。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。



深谷つ子、プロ野球独立リーグに入団

～四ツ谷良輔選手（愛媛マンダリンパイレーツ）～

プロ野球独立リーグ四国アイランドリーグplus。昨年12月11日のドラフト会議で、「愛媛マンダリンパイレーツ」から指名された四ツ谷良輔さん。市内普場出身の深谷商業高校3年生です。

「小さいころから、プロ野球選手になるのが夢だった」と語る深谷つ子は、300名が参加した11月のトライアウト（入団テスト）を受験。社会人や大学生に交じり、50m6・0秒の俊足や自慢の肩を披露し、見事入団を果たしました。

野球との出会いは、祖父とのキャッチボール。5歳の時からテレビはいつも巨人戦で、あこがれは華麗な守備の仁志選手でした。その動きに魅了され、自分の将来を思い描いたつ子は、

深谷つ子さんは、1年生からレギュラー入ります。内野手と投手を兼任し、チームの要として活躍。キャプテンを任せられます。夏の甲子園を目指す県大会の成績は、3年間とも3回戦止まりです。

だが、プロ野球への熱い思いは消えませんでした。

恩師の石川監督からは「大変だぞ、わざわざ困難な道を選ばなくても」と大学進学を勧められます。しかし、本人の決意は固く、また家族からも、「好きなことをしなさい」と心強いエールをもらい、プロへの門をたたくことができました。

すでに入団式が行われ、4月からは1人暮らしが始まります。

四ツ谷選手は、「不安もありますが、期待いっぱいです。戦える身体をつくり、四国からNPB（日本野球機構）を目指したい」と語ってくれました。



愛媛マンダリンパイレーツは、2年連続でNPB12球団へドラフト指名選手を輩出しています（7年間で計7人）

夫婦道のススメ

好きだよと言えたおかげで今がある

（博さん作の川柳）
大沢博さん（81歳）
千穂さん（72歳）



見晴町にお住まいの大沢さんご夫妻は、結婚50年目。年上で勉強家の博さんは、努力家の千穂さんに惹かれます。3年をかけ妻の両親を説得し、結婚。共働きで3人の子育てと親の介護を上手に分担し合いました。現在は、お互いを尊重し、多彩な趣味や仲間との交流を楽しんでいます。

夫婦円満の秘訣は、『お互いの存在をありがたく思うこと』。一時の我慢や苦勞も、過ぎてみれば、すべてが感謝になるそうです。

ありがとうの手紙



最優秀賞
小学校低学年の部
いもうとへ

深谷小学校2年 山崎愛美さん

まことが生まれてからすごくいい気分。
まことにくっついていると、いいにおいがして、幸せな気持ちになってくる。まことをだっこしていると、とてもからだがあたたかくなる。だから、いつもみんなでまことのとりあっこだよ。
まことが大きくなって、おしゃべりするのがとてもたのしみです。かぞくみんなでおでかけもしようね。まこと、生まれてきてくれてありがとう。いもうとになってくれてありがとう。